

# 平出宮ノ前・牧垣外遺跡

中部電力株式会社岡谷松島連絡線鉄塔  
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1985.3

長野県辰野町教育委員会

## 序

平出宮ノ前・牧垣外両遺跡は、辰野町平出地区に位置し、古くから縄文時代、平安時代の埋蔵文化財包蔵地として知られてきました。平出宮ノ前遺跡は由緒にある法性神社に近く、また牧垣外遺跡は地名の上からも古代平井手牧との関連が考えられておりましたが、昭和48年には中央道建設工事に伴って牧垣外遺跡の発掘調査が行われ、平安時代の竪穴住居址が発見されました。更に、牧垣外遺跡に隣接する半平蔵遺跡では、近年辰野東小学校地内において数次にわたる発掘調査を行い、古墳時代から平安時代にかけての50余基にのぼる竪穴住居址を発掘しております。

今回これら2遺跡内において中部電力株式会社による鉄塔建設の工事が計画され、事前に発掘調査の必要が生じたため、同社の委託を受け町教育委員会が主体となり調査を実施いたしました。

その結果、調査は限定された狭い範囲であったため両遺跡から遺構の発見はありませんでしたが、縄文時代、平安時代、更に中世の遺物が出土し、付近一帯がこの時代の包蔵地であることを確認することができました。

ここに調査報告書を刊行する運びとなり、ご指導を賜った長野県教育委員会文化課をはじめ、ご協力いただいた中部電力株式会社ならびに地権者の方々、それに直接調査に従事された調査団の皆様に深く感謝申し上げるとともに、この報告書が広く活用されることを願う次第です。

昭和60年3月

辰野町教育委員会

教育長 小林晃一

## 例　　言

1. 本書は、中部電力株式会社長野支店による送電線岡谷松島連絡線鉄塔建設に伴う、長野県上伊那郡辰野町平出所在の平出宮ノ前遺跡及び牧垣外遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、中部電力株式会社長野支店長太田四郎と辰野町教育委員会教育長小林晃一との委託契約に基づいて行われた。なお、発掘調査団等の組織については発掘調査関係者名簿として別掲した。
3. 発掘調査は昭和59年11月21日から12月5日まで実施し、出土遺物の整理及び報告書の作成は昭和60年1月7日から3月10日まで行った。
4. 発掘調査現場における記録及び出土遺物の整理、実測図等の作成は友野良一、小木曾清が行い、報告書の編集は主として友野が担当した。なお、執筆分担については次のとおりである。

例言・第Ⅰ章——事務局　　第Ⅱ章・第Ⅲ章・所見——友野　　第Ⅲ章第2節1——  
友野・小木曾
5. 調査及び整理にあたっては、実測図、写真等多數を作成したが、それらの資料は出土遺物とともに辰野町教育委員会に保管しているので、広く活用されたい。

## 発掘調査関係者名簿

### 1. 平出宮ノ前・牧垣外遺跡発掘調査団

調査団長　友野良一（日本考古学协会会员・宮田村）

調査員　小木曾清（宮田村）

#### 発掘調査協力者

赤羽淑子、植村翠、牛山幹、小松祐二、城倉けさみ、林英文、  
布野今朝雄、山崎馨、山辺量平

### 2. 事務局

教　育　長　小林晃一

社会教育課長　田中巖次

社会教育係長　小沢清利

社会教育係　林康彦、有賀万里

## 目 次

序		
例 言		
目 次		
第 I 章	発掘調査の経緯	
第 1 節	保護協議の経過.....	1
第 2 節	発掘調査の経過.....	1
第 II 章	遺跡の環境	
第 1 節	遺跡の位置.....	2
第 2 節	地形及び地質.....	3
第 3 節	歴史的環境.....	3
第 III 章	遺構と遺物	
第 1 節	調査の概要.....	5
第 2 節	遺構と遺物.....	5
1.	宮ノ前遺跡.....	5
2.	牧垣外遺跡.....	7
所 見		
挿図目次		
第 1 図	宮ノ前・牧垣外遺跡の位置.....	2
第 2 図	宮ノ前・牧垣外遺跡の地形.....	3
第 3 図	宮ノ前遺跡の調査坑.....	5
第 4 図	宮ノ前遺跡調査坑の出土遺物.....	6
第 5 図	牧垣外遺跡調査坑.....	7
図版目次		
図版 1	宮ノ前遺跡調査状況.....	11
図版 2	宮ノ前遺跡調査状況.....	12
図版 3	宮ノ前遺跡調査状況.....	13
図版 4	宮ノ前遺跡出土遺物.....	14
図版 5	牧垣外遺跡出土遺物.....	15
図版 6	牧垣外遺跡出土遺物.....	16

## 第Ⅰ章 調査の経緯

### 第1節 保護協議の経過

平出宮ノ前遺跡は、昭和30年の『信濃史料』編纂の折その存在が確認され、縄文時代の包蔵地として知られてきた。また、牧垣外遺跡は縄文時代及び土師器の包蔵地として長野県遺跡台帳に登録されており、昭和48年には中央道建設に伴って発掘調査が行われ、縄文時代の遺物及び平安時代の堅穴住居址の出土があった。

昭和59年8月、中部電力株式会社長野支店長から送電線用鉄塔建設に係り、大字平出字宮ノ前1449番地、同字牧垣外2205番地におけるそれぞれ49m<sup>2</sup>内の埋蔵文化財の取り扱いについて、辰野町教育委員会へ照会があった。このため教育委員会社会教育課では現地を視察した結果、建設予定区域には平出宮ノ前、牧垣外両遺跡が存在することを確認した。続いて、中部電力株式会社、辰野町教育委員会及び考古学研究者友野良一氏の三者で保護協議を行ったが、既設線は地上高が低く、周辺は宅地化が進み、かつ隣接する法性神社立木も成長している情況等を考慮すると、鉄塔建設による高上げ工事施工はやむを得ないと判断し、事前に発掘調査を実施することとした。引き続き発掘調査の日程及び発掘調査団の編成について協議を行い、発掘及び発掘調査の通知を提出した。11月、中部電力株式会社長野支店長太田四郎と辰野町教育委員会教育長小林晃一との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、11月21日現地で発掘調査に着手した。

### 第2節 発掘調査の経過

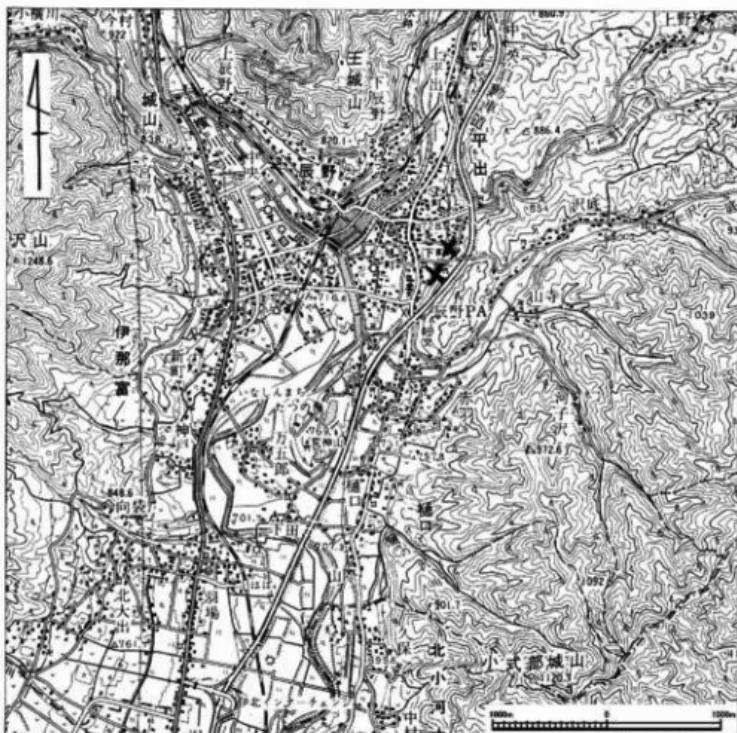
#### 調査日誌

- 11月21日（水） 調査器材を運搬し、テントの設営を行う。牧垣外遺跡のあらかじめ中部電力によって設定されている施工区（7m×7m）内の表土除去。
- 11月22日（木） 引き続き表土除去を行い、調査区壁により土層を観察しながら掘り下げを行う。集疊状のものが出土。
- 11月26日（月） 集疊以外の部分の掘り下げを行う。テフラ・ブロックの層を確認。
- 11月27日（火） テフラ・ブロック層の下層に再び黒色土層が現れ、複雑な構成を示す。
- 11月28日（水） 砂疊層まで掘り下げ、全体の測量を始める。
- 11月29日（木） 宮ノ前遺跡の表土除去と掘り下げ、牧垣外遺跡の測量を行う。
- 11月30日（金） 引き続き宮ノ前遺跡の掘り下げを行う。牧垣外遺跡の写真撮影。
- 12月1日（土） 北西コーナー付近を中心にジョレンかけと掘り下げを行う。
- 12月3日（月） テフラ面は以外に浅く、ジョレンかけによる遺構面の確認を行う。
- 12月4日（火） 全体の測量と清掃を行い、写真を撮影する。
- 12月5日（水） 器材及びテントの撤収と運搬を行い、現地の作業を終了する。

## 第II章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の位置

宮ノ前、牧垣外両遺跡の地理的位置は、長野県上伊那郡辰野町平出宮ノ前・牧垣外に所在している。この遺跡は、JR飯田線辰野駅の東南天竜川東1,160mの地点、及び中央自動車道辰野PAより北500mの位置にある。遺跡の標高は、宮ノ前遺跡が734m、牧垣外遺跡は727mである。



第1図 宮ノ前・牧垣外遺跡の位置

## 第2節 地形及び地質

遺跡の位置している宮ノ前・牧垣外は、伊那疊層の上部に上野川の流出した砂疊層と、伊那山脈の西麓の崩壊した流出砂疊の堆積地帯が所在している。この地域には縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良・平安時代の遺跡が分布している。

### 地質

宮ノ前遺跡は、伊那盆地の基盤をなす洪積層(伊那疊層)上にテフラが堆積して出来た地層である。この地層の上部に上野川の流出砂疊が堆積した上野川の扇状地である。

牧垣外遺跡は、法性神社の南に当り、かつては古い上野川の扇状地南端であったが、現在は遺跡の東方山麓よりの小谷が作った小扇状地と考えられ、上野川の堆積物とは異った砂疊の上に、成立した遺物包蔵地である。

## 第3節 歴史的環境

宮ノ前・牧垣外両遺跡の付近に所在する遺跡を概観する。

### 1. 平出丸山遺跡、本遺跡は、辰野町平出保育

所の増設工事に伴なう埋蔵文化財の調査を実施したもので、この遺跡は上野川の右岸の段丘上に所在し、その範囲は東西150m、南北40mの狭い小段丘に営まれ西端には小円墳があったところより、丸山と名付けられたと言われている。平出丸山遺跡とされたのもそうした事情があったものと思われる。遺跡の分布調査では、縄文時代である。また、丸山地籍の西端は



第2図 宮ノ前・牧垣外遺跡の地形

東天竜用水路が開さくされた時、切取面より「原牛」の化石が発見された地点である。

丸山遺跡の発掘調査の結果は、辰野町最古の土器である縄文草創期の表裏縄文土器が発見され、つづいて縄文早期の押型文土器も検出された。そのほか、縄文後期の石組の石棺墓が数多く発見され、辰野町としても重要な遺跡の一つである。

2. 半平蔵遺跡、本遺跡は辰野町東小学校の校舎改築工事に伴ない発掘調査が行われた遺跡である。この遺跡からは、縄文時代中期・弥生時代後期・古墳時代・奈良時代・平安時代の住居址が数多く発見され、特に古墳時代～平安時代の集落は、平出の牧の成立にかかわりをもつ重要な遺跡として注目された。

3. 御社宮司古墳、本古墳は宮ノ前遺跡の北小谷を離てた上野川の扇状地に営まれた平出古墳群の内の一基である。同古墳は、現在墳丘が完全に取り去られ、横穴式石室の奥石と石室の基底の石の一部が残っただけである。出土した遺物は、土師器・須恵器・椎頭太刀・鐸・金環・銀環・勾玉・雲珠・鏡板等の優品が数多く発見された。

4. 御陵ヶ塚古墳、本古墳は御社宮司古墳の東150mの所に所在していて、現在は町指定文化財として保存されている。古墳にはサワラの古木が立ち、石室の一部が露出している。

5. 越道遺跡、本遺跡からは、縄文中期・弥生後期・平安時代・中世の陶器片が発見されている。

6. 宮ノ上遺跡、本遺跡からは、縄文中期・弥生後期・平安時代の遺物が出土している。

7. 大窪遺跡、本遺跡は、牧垣外遺跡の東側に当る所に所在している遺跡で縄文中期の土器片などが発見されている。

8. 牧垣外遺跡、本遺跡は範囲が広く中央道の工事に発掘調査され、縄文中期中葉・縄文中期後葉の外に平安時代の住居址1軒が発見されている。

## 第Ⅲ章 遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

宮ノ前・牧垣外両遺跡は、中部電力株式会社が送電の電柱を鉄塔に建て替えるために発掘調査を行った遺跡である。本調査は一般の遺跡調査と異なり、用地以外は調査ができないという条件で実施されたものである。

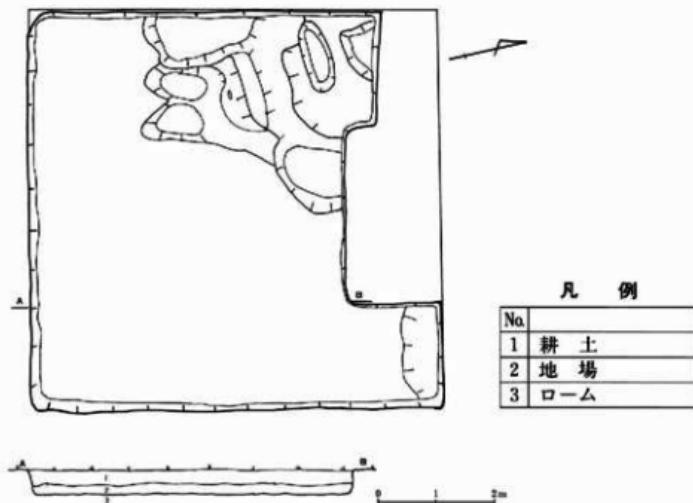
宮ノ前遺跡は、発掘調査の結果、遺構は確認できなかった。遺物としては、縄文中期中葉～後葉の破片・土師器の破片・黒曜石削片・明治頃の陶器片などが発見された。

これらの出土遺物はいずれも磨耗しているので、水田の造成時あるいは、自然の流出による移動的なものであると考えられる。

牧垣外遺跡、本遺跡も実施方法はまったく同一条件のもとで行われ、調査の結果、遺構は確認できなかった。遺物は縄文中期後葉の破片・土師器・須恵器・灰釉陶器と、中世陶器片が発見された。出土遺物も磨耗しているところより、付近の遺物包蔵地より流出したものではないかと考えられる。

### 第2節 遺構と遺物

#### 宮ノ前遺跡



第3図 宮ノ前遺跡調査坑

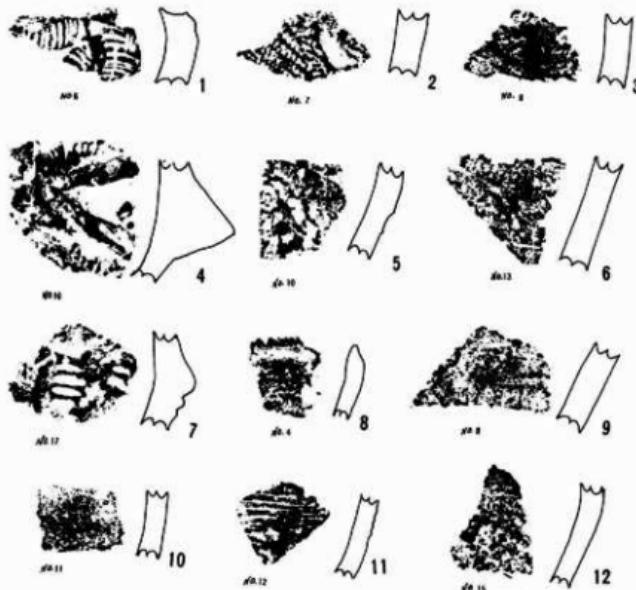
## 調査坑

本遺跡の調査個所の地目は水田である。この水田の造成前は西側に傾斜していた畠地であったが、水田の造成に当って畠地の高いところを削り低い所に埋立を行った。

そのため、調査坑の東側は耕土を除土すると、直接テフラ面に達した。調査坑の西側面へ行くほど埋立が深くなっている地盤である。調査は鉄塔建設予定個所に、 $7\times7\text{m}$ のグリッドを設定し調査を開始した。地層調査ベルトは幅 $0.4\text{m}$ にし東西・南北に設定した。調査は先ず耕土を除土、次いで地場を除くと、調査坑の南側半分は固いテフラ層が出土した。この個所は水田の造成時にテフラを切取った面と考えられるところである。北側に3ヶ所程凹が発見されたが、これは中部電力の古い電柱の跡であることが確認された。東北の隣と西北の凹みは当初造構ではないかと考えられたが、調査の結果水田造成時の埋立による擾乱層であることがわかり、古い時期の造構は存在しないことが確認された。

## 遺物（第4図）

本調査に於いて出土した遺物は、総点数で22点採集された。その内訳は、縄文中期の土器9点、黒曜石破片4点、土師器破片6点、須恵器破片2点、陶器破片（明治？）1点が出土した。これらの出土遺物は擾乱層から検出されたものが一番多く、これらの遺物は自然の流出によるものか、水田造成時の移動によるものと考えられる。

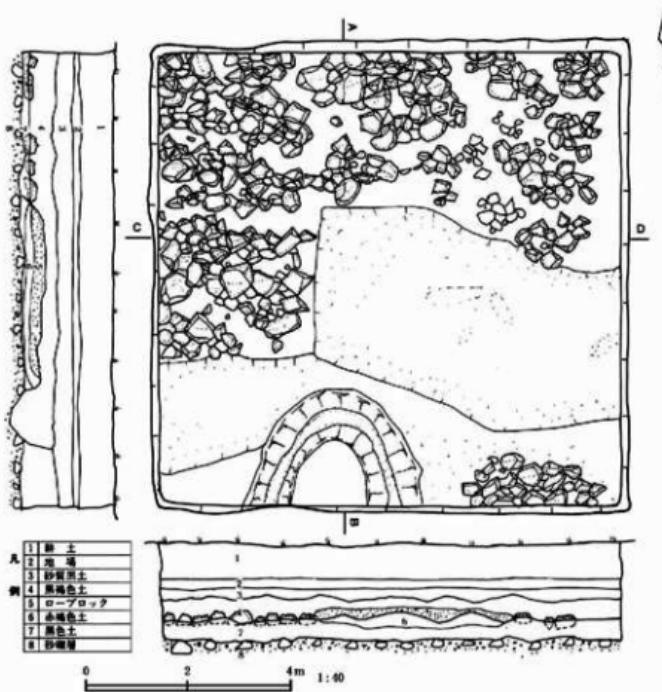


第4図 宮ノ前遺跡調査坑出土遺物

1は、隆帯に爪形文と横位及び縦位に施した焼成良好の縄文中期中葉に比定される土器。2は、地文に縄文を施し、一部無文と半裁竹管文が施された土器、又胎土に金雲母が含まれ焼成良好の縄文中期井戸尻式に比定される土器。3は、無文の破片土器である。胎土に金雲母を含み裏面の調整の良好な縄文中期曾利式に比定される土器。4は、深鉢形土器の頸部の破片である。耳状の隆起帶に竹管具による沈線が縦に施され、その下部に半裁竹管による連続爪形文が施された縄文中期後葉の土器。5は、竹管具の先で押付ながら連続刺突文を施した縄文中期後葉の土器で、胎土に長石が多く含まれ焼成良好の土器。6は、器面の風化が進んでいる無文の縄文中期後葉の土器。7は、深鉢形土器の頸部付近の破片、隆帯部に竹管具による爪形状に施文された縄文中期の井戸尻式に比定される土器。

8は、碗形土器の口縁部破片。焼成良好の土師器。9は、無文の深鉢形の土師器、10は、無文の深鉢形の土師器。11は、カキ目のある深鉢形土師器。12は、無文帯と沈線文がわずかに見られる土師器。以上8~12の土器は奈良末か平安期の遺物である。

#### 牧垣外遺跡



第5図 牧垣外遺跡調査坑

この調査は、宮ノ前遺跡と同様中部電力の送電線鉄塔建設に伴って調査された遺跡で、予定された7×7mの区域が調査の範囲である。調査個所は法性神社の南側の小谷の凹地である。現在の地目は畠地となっているが、古くは水田であったようである。この水田は、かつて、山の田と言われていた所で、小さい田は法性神社の南側を西面に所在していたが、東天竜が開削した後は、この付近に多くの水田が造成されたと言われている。今回の調査の結果このあたりは、東側の山麓より砂礫が谷間の凹地に流出し堆積したことが確認された。今回検出された出土遺物は、流出した砂混り黒色土層中より出土したものである。本個所の調査では流出した疊層と2次堆積テフラに掘り込まれた凹凸の個所は、マウンド的な遺構ではないかと考えられたが、最終的には遺構として確認することができなかった。

#### 遺 物（図版5・6）

- 1は、縄文地に縦に平行沈線を施したやや薄手の焼成の良好な縄文中期後葉の土器片。  
2は、縄文の地文に3本の竹管を施した土器である。3は、無文の深鉢形土器の破片で、土器面には指痕の調整痕が残っている縄文後期の土器と考えられるもの。4は、無文の土器片である。5は、カキメの土師式甕の破片、6は、土師器の碗の口縁部破片。7は、無文の甕形土器の破片。8は、糸切底の土師の皿の破片。9は、器形不明の土師器、以上は、奈良末から平安時代の遺物である。
- 10・11は、印目のある變形須恵器の破片である。12は、ロクロ目のこる灰釉陶器の口縁部、13は、東濃系の灰釉陶器、器形不明11世紀。14は、鉢16世紀末の瀬戸窯のもの。15は、鉄釉が施された甕の破片16世紀。16は、灰釉が施された變形の陶片17世紀。17は、天目茶碗の破片で、鬼枝の見える大窯期のもの。18は、灰釉の陶片、16世紀末と思われるもの。

## 所 見

宮ノ前・牧垣外両遺跡の調査の結果知り得た二・三の問題点について述べ所見としたい。

今回の調査は、中部電力の送電線の鉄塔建設に伴う緊急発掘調査であったこと。従って、その調査区域は限定され小範囲にとどまったことは言うまでもない。

### 1. 牧の前遺跡

本遺跡は「信濃史料」の分布調査において確認された遺跡で、沢底川と上野川に挟まれた、伊那山脈の西麓の傾斜面にあり、それが平出段丘面に接する位置に所在する遺跡である。今回調査された個所は東天竜用水路の西、1449番地地籍である。この地籍は水田造成時に切取った面と、埋立てた個所であり、遺構も確認できなかった。しかし、水田造成時に移動したと考えられる縄文中期中葉の土器や、土師器等が検出された。このことは、今回調査された付近には確実に遺跡が所在することを物語るものとして重要な調査となった。

### 2. 牧垣外遺跡

今回調査された個所は法性神社の社殿の南西80mの位置に当っている。調査は中部電力が買収した個所を調査対象として実施した。7×7mのグリッドを設定して調査を行った。調査坑は約1.4~1.6mの深さまで掘削すると、角礫の堆積した層に達した。この礫は二次堆積したテフラ層の上部に流出し堆積したものであることが確認されたが、遺構らしきものはついに発見されなかった。しかし、堆積した砂質黒土中からは縄文中期土器、土師器、須恵器灰釉陶器、それに中世の陶器が混在して発見された。このことは、付近から流入したものであることを如実に物語っているものである。

### 3. 地名について

牧垣外と言う地名は、平井手牧にかかわる地名であることは言うまでもないことである。牧垣の外と言う意味ではなく、牧の範囲の中であると言う見解を述べられたのは故一志茂樹博士である。私も同じ立場でおるところである。おそらく、牧場の端を意味していると思われる。「中村裏」と言う地名があるが、「中村」と言う地名が現在は存在していないが、おそらく「中村裏」付近か「中村」で、そこが牧主の暮していたと考えられるところである。そのほか、「ませ口」「駒よせ」「はんへそお」「公文」などは平井手牧に關係の深い地名だと考えている。

この調査に当っては、辰野町教育委員会のお骨折に心より感謝申し上げる次第である。

調査団長 友野良一

# 図 版

宮ノ前遺跡



宮ノ前遺跡調査坑  
発掘状況



宮ノ前遺跡調査状況



図版1 宮ノ前遺跡調査状況

宮ノ前遺跡調査状況



宮ノ前遺跡調査状況



宮ノ前遺跡調査状況



図版2 宮ノ前遺跡調査状況

宮ノ前遺跡調査状況



宮ノ前遺跡調査状況



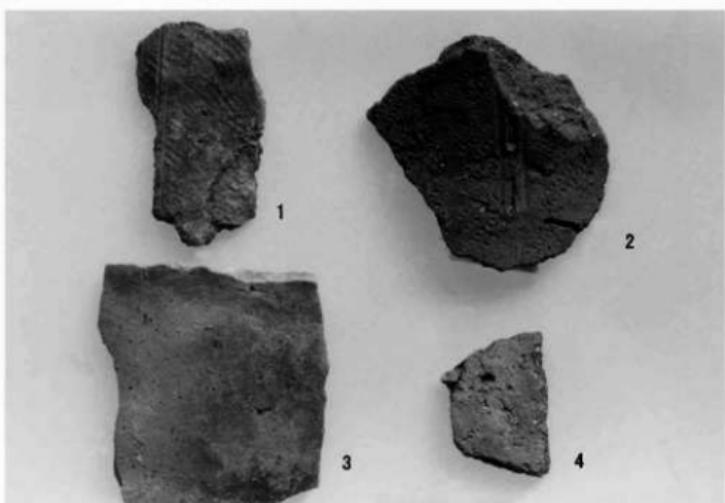
宮ノ前遺跡調査状況



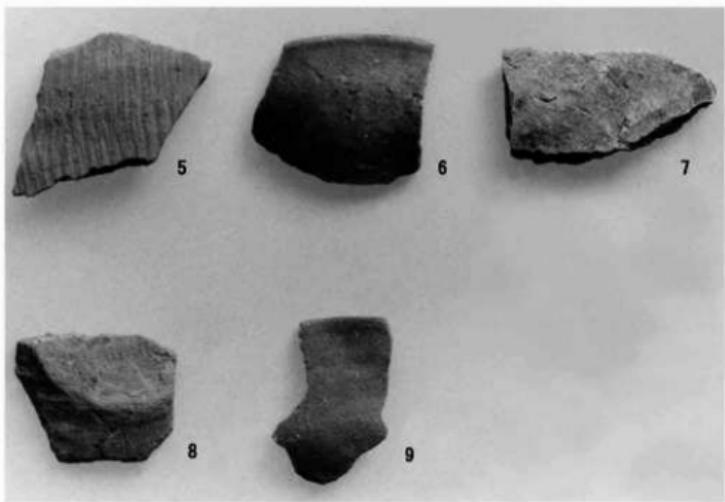
図版3 宮ノ前遺跡調査状況



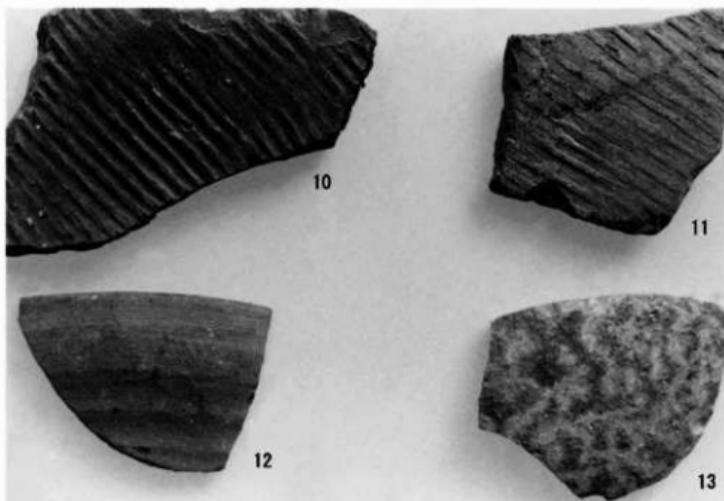
図版4 宮ノ前遺跡出土遺物



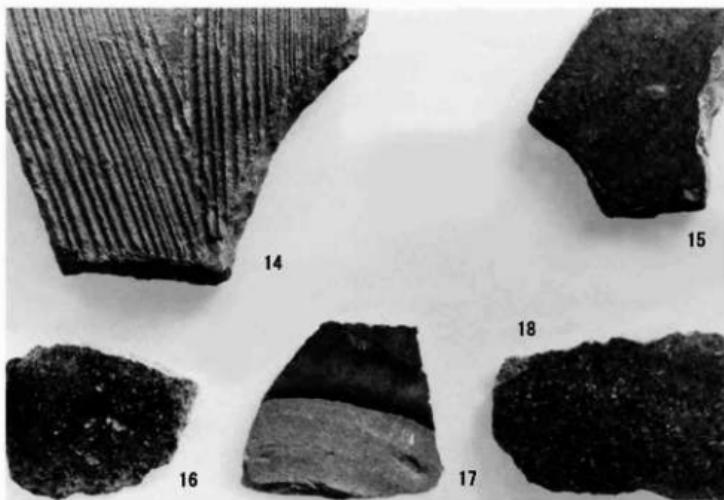
牧垣外遺跡出土遺物



圖版 5 牧垣外遺跡出土遺物



牧垣外遺跡出土遺物



圖版 6 牧垣外遺跡出土遺物

## 平出宮ノ前・牧垣外遺跡

中部電力株式会社岡谷松島連絡線鉄塔  
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

発行日 昭和60年3月20日  
発 行 長野町教育委員会  
長野県上伊那郡長野町中央1  
〒399-04 0266(41)1111㈹  
印 刷 ブルオノウエ印刷

---